〔史跡の活用事例〕

「古仁屋高等学校の瀬戸内町・近代遺跡活用の取組」

１．学校名	鹿児島県立古仁屋高等学校
２．学年・人数	全学年　87 名
３．日時・場所	⑴ 近代遺跡を活用した探究学習（総合的な探究の時間「スットグレ」） ①瀬戸内町職員による出前授業　令和６年６月 １年生 ②史跡『奄美大島要塞跡』三次元データを活用したデジタルワークショップ　令和６年 12 月全学年 ③埋蔵文化財センターでのインターンシップ　令和６年７月ほか２年生 ⑵　近代遺跡を活用した課外活動 ①まちづくり研究所部と鹿児島大学法文学部・指宿高校との合同調査　令和６年９月 ②「西古見砲台跡」を活用した集落活性化への提言　日本考古学協会高校生ポスターセッション　令和６年５月　３年生 ③「久慈製糖工場跡」出土煉瓦の胎土分析　東京大学大気海洋研究所高校生サイエンスキャンプ　令和６年８月　２年生
４．活用に取り組んでいる史跡の名称・時代・特徴について	⑴　史跡　奄美大島要塞跡（しせき　あまみおおしまようさいあと） 西古見砲台跡（にしこみほうだいあと）近代 安脚場砲台跡（あんきゃばほうだいあと）近代 手安弾薬本庫跡（てあんだんやくほんこあと）近代 ⑵　特徴等 大島海峡付近には、明治時代以降に建設された要塞施設の多くが戦後も良好な状態で残存している。ワシントン海軍軍縮会議やアジア・太平洋戦争などの近代日本の国防政策と密接に関係する遺跡群で，なかでも「西古見砲台跡」「手安弾薬本庫跡」「安脚場砲台跡」は、日本の近代史を理解する上で重要な遺跡であることから国の史跡に指定されている（令和５年３月）。
５．活用の取組において地域との連携や工夫した点等	瀬戸内町埋蔵文化財センターをはじめ、東京大学大気海洋研究所や筑波大学、鹿児島大学、遺跡の３Ｄ測量や解析を行う民間企業など史跡の活用にむけた産官学連携での取組に、高校生も調査補助や探究活動の一環として参加している。探究活動成果発表等においては，指導・助言をいただている。
６．取組の様子（研究発表等）	 久慈製糖工場跡出土煉瓦の胎土分析(製作地の推定) 西古見砲台跡のデジタルデータを活用した３Ｄ体験
７．感想・意見（参加児童生徒・保護者・保存会・教員等）	・地元にこのような遺跡があることを知らなかった。もっと多くの人に知ってもらえるような活動をおこなっていきたい。【２年生】 ・遺跡のデジタルの画像を見て、現地にいるようだった。木なども無くして当時の様子を再現できる技術はすごいと思った。【１年生】